

平成30年度第1回ひとにやさしい社会推進セミナー



講師の佐々木孝子さん

7月18日、ひとにやさしい社会推進セミナーをヒロロで開催しました。今回は青森県立鶴田高等学校教諭で家庭科を教えている佐々木孝子さんが講師となり「未来を開く鍵 家庭科がおもしろい!!」〜次代を担う若者はここまで学んでいる〜と題し講演しました。

佐々木さんは家庭科教育について「以前は良妻賢母を目指し女子だけが学ぶ教科だったが、今では『生き抜く力を身に付けること』をキャッチフレーズに男女共修になっている」と話し、平成元年からは小学校から高等学校まで一貫して男女が学ぶようになり、授業内容が変化してきたと語りました。

現行の学習科目は家庭基礎と家庭総合に分かれており、青森県内の高校では8割弱の生徒が家庭基礎を1年、週2時間、70時間をかけて学んでいること。項目は「人の一生と家族・家庭及び福祉」

「生活の自立及び消費と環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」があると紹介。佐々木さんは「実際は65時間でできれば良いよう。家庭科は受験に関係ないと思われるが」と話した上で「大学入試の小論文のテーマは介護や福祉の問題、食品の安全や消費生活など家庭科で学んでいる領域がベースになっているものもあるなど受験にも生活にも必要な教科である」と述べました。

新入生の最初の授業では、高校卒業後数年でどれだけ生徒が就職を継続しているか具体的に少ない数字を突き付けることで生徒の気持ちに揺さぶりをかけていると佐々木さん。「全てが自分の思うとおり的人生ではないこと。自分がどういいう人生を歩みたいか、そのためには何が必要か考えてもらうきっかけ作りをしている」と語りました。

さらに30年後の様々な人生のパターンを記入したカードを生徒に引いてもらい、書いてある人生について語ってもらおうというユニークな授業も紹介。セミナーの来場者もカードを受け取り参加しまし

た。「疑似体験をすることで、多様な価値観や生き方にふれてもらい、性別から一歩踏み込んで自立しなければならぬことが目的。人々が共に生きる社会や個人のありかたを考える機会になつていく」と話しました。

実習の授業で生徒達は調理やクリーニングの実験などを通して、生活を科学的な視野で学んでいると述べ「どの課題もまずは自由にやらせ、失敗してもそこから学んだことは身につくことが多い」と話しました。

消費者教育では、フリマアプリでのトラブル例や約款を調べたりトラブルになったときを想定し、実際に消費者センターに電話をかけた対応してもらって練習もしているとの紹介。「今の子どもたちはたくさん選択肢の中からものを選ばなければならぬ。どういう視点で選んだらいいのか、賢い視点で選択できるように体験させていく」と語りました。

家庭科を学ぶ課程で見つけた課題を解決していくホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動では、家庭や家族、学校や地域のための探求学習をしていると佐々木さん。「生徒自らボランティア活動

のためにアロマセラピーやハンドマッサージを学び活動にかかっている。高齢者や地域おこしにかかわることで、コミュニケーションが苦手だった生徒も課題対応能力が伸び活動を通して認められていると実感することで成長している」と紹介しました。

佐々木さんは家庭科について「少子化の影響で教員も半数になり、単位数も少なくなった。部活動ではない家庭クラブは予算的にも少なくさまざまな面で問題がある」と明かしながらも「管理職の理解、地域とのつながり、外部でのPR活動などで今の活動ができている。高校の家庭科はこういうことをしているというのを是非知ってほしい」と語りました。



来場者は、自分が習った頃の授業内容との違いに驚きつつ、現在の家庭科教育について理解を深めていました。